

ことぶき共同診療所だより

第 17 号

2004 年 5 月 10 日発行

横浜市中区松影町 2-7-17 リバーハイツ石川町 2F

電話とファックス 045-651-2305

発行：ことぶき共同診療所

目次

診療所は満八歳 —患者さんの激増はまだとまりません—	田中 俊夫
ディケア温泉旅行報告	大平 正巳
寿町関係資料室から	松本 一郎
ボランティアの方から	
ことぶき共同診療所と出会って	梶尾 茂子
“診療室から”(13)—超音波(エコー)検査室から—	鈴木 美奈子
鈴木茂男さん 追悼	
鈴木茂男さん逝く	田中 俊夫
鈴木さんをしのぶ<ついにオレは酒が恋人なんだと言い切って>	西村 料美
茂男さんへ	矢島 雅子
聴きとり結果報告	
ことぶき地区居住者が利用する	
食堂、食料品店、銭湯等について	田中 俊夫
共同診療所・鍼灸院ガイド	



診療所は満八歳 —患者さんの激増はまだとまりません—

一年前の診療所だより第 15 号に“100 人を超える患者さんが受診する日も、そう珍しくなくなってしまい”と書き、半年前の第 16 号には“最大で1日 128 人という想像もつかなかった数”と書いたのですが、今ではそれが、140 人を超える日も珍しくなく、となり、最大で 149 人という数になってしまいました。これには勿論、鈴木先生が来てくれて、当所のキャパシティーが大きくなったことが関係しているはずですが、それ以外にも幾つかのことがあるようです。その一つにドッツ(肺結核対策として始まったもので、患者さんに毎日来てもらい、その日一日分の薬をお渡しするか、目の前でのん

でもらう形式)の患者さんが大幅に増えてきている、ということがあります。対象となる患者さんは、主に2種類あり、一つは老齢化等が原因となって記憶力が低下し、安全、確実な服薬が難しくなっている患者さん達です。もう一つは、断酒をしている患者さん(アルコール依存症)達の中で、スリップ(再飲酒)してしまう危険性の高いと思われる患者さんに、毎日確実に抗酒剤(シアナマイ



豆まきにあわせ、造形でお面を作りました

ド又はノックピン)をのんでもらうため、
というものです。こうした対応は、福
祉保健センターのケースワーカーか
らの依頼による場合、当所で独自
の判断でやる場合、アルク等と連携
してやる場合等と色々あるのですが、
いずれにしる、関係機関と協力しな
がら、きめ細かくやろうとすると、当
然やることが増えてしまうというわけ
です。現在、おおむね医師2人、看
護師2人、受付2人の体制でやって
いるのですが、それぞれもう1人いな
いと無理になってきている気がしま
す。

この半年間に始まったこととして
は、鈴木美奈子先生による腹部エ

コー検査の定例化があります。去年
の11月からですが、毎週水曜日の
午前中予約制でやっており、肝臓、
腎臓、前立腺等の疾病の検索に役
立っています。

その他デイケアでは、例年の通り
稲刈りをやり、大晦日を紅白を見な
がら皆で過ごし、花見兼凧あげを森
林公園で行いました。資料室の方
では、次の出版物の計画がすすん
でいます。まだまだ道半ばなです
が、前に向かって進んでいることだ
けは、信じたいと思っています。有
志の人(特にお医者さん)の御来援
をお待ちしています。

(田中 俊夫)

ディケア温泉旅行報告

3月15、16日、那須塩原温泉にて、ことぶき共同診療所ディケア恒例の温泉旅行が開催されました。今回の旅行を企画する中で、低予算でどこまで充実した旅行が可能となるのか、利用者とスタッフが話し合い、ディケア参加者が月千円の積み立てを一年間継続することで実現しました。

初日朝は、集合予定時間に誰一人遅刻することなく集まることが出来、滑り出しから順調な出足となりました。前日から診療所に宿泊して待機してくれた関屋さんご苦労様でした。

参加者は、バスで塩原温泉に移動。現地では、温泉街で見つけた和食料理屋で昼食をとりました。低料金で豊富なメニュー(キムチスープまであった)に一同感激でした。

その後、料理屋で働く親切な仲居さんから「観光するなら周遊バスが最適だよ！」とのアドバイスを頂き、一同周遊バス券を購入。レトロ調のバスで

塩原観光に出発しました。バスの車窓から見える景色は切り立った崖や溪谷、そして大小の滝、まさに絶景でした。あまりの絶景に一同見惚れてしまい、目的地でバスを降りるのを忘れ、寒風吹きすさぶダム湖見学しか出来なかったことはご愛嬌でした。

当日、夜は夕食会場で料理に舌堤を打ちつつ、会場(約200名)でのカラオケ大会に診療所代表として武藤さんが参加、並み居る競合を相手に堂々の熱唱を披露、拍手と記念品を得てホクホク顔でした。

夜は、カラオケボックスに移動し全員が好きな歌を熱唱し大いに盛り上がりました。みなさん、歌が上手で、歌う姿が生き生きしていたことが印象的でした。カラオケはまた別の機会でもやりたいですね。

翌日は、近所のお寺見学と登山を行いました。足の悪い仲間もみんなの応援を得て参加。山頂からの景

色はなかなかの物でした。中村さん、
お疲れさまでした。

帰りは、バスが2時間も遅れるなど
ハプニングもありましたが、みんな無

事に帰宅できました。最後に、みなさん
来年も楽しい旅行を実現しましょ
うね。

(大平 正巳)

寿町関係資料室から

寿町のドヤ街で生活する人々にとっては、各種の生活上の情報が必要です。大は公的機関の位置・役割から、小はコンビニ、風呂屋、気持ちのいい散歩コースまで、知っているのといないのでは大違いの筈。特に初めて寿町に来た人達にとっては、そうだと思います。加えてそのような情報は、寿町での日常的なケアに関わる医療・福祉の仕事やボランティア活動をされている方にとっても、必要不可欠です。列挙すると、車椅子で入れるトイレ、キャッシュディスプレイ、100円ショップ、銭湯、社会保険事務所、医療機関、薬局といった場所は、付き添ったり買出しに行く際に、欲しい情報です。

そこで、昨年12月、これまで生活者の視点に立った地図が作られてこなかったことを考え、この町で暮らす方や関係機関の方からの聴きとりと、足で歩いての調査に基づいて、「ことぶき生活便利マップ」を刊行しました。A4版カラー印刷で、寿町内の詳細地図と寿町周辺広域地図とに別れており、受付に



て2枚1組100円で販売しています。

反応はなかなか上々だと思います。「これいいねえ」と10枚まとめて購入し、同じドヤに住む友人知人に配布してくれている患者さんがいます。福祉事務所からは「寿町が初めての人にとっては右も左もわからないので、そういう人にはコピーして配っていいですか？」と問い合わせがあったりしました。こういう声の一つ一つが嬉しく、ありがたいものでした。

さて、この「便利マップ」の今後ですが、地図の情報というのは古くなりやすく、生命線である「便利さ」を追求するために、できる限り毎年発行していきたいと考えています。

(松本 一郎)

ボランティアの方から

診療所では、デイケアを中心に、いろいろなボランティアの方々がお手伝いに来てくださっています。

今回は、ヨガの講師の梶尾さんに寄稿していただきました。

ことぶき共同診療所と出会う

梶尾 茂子

はじめまして。私はデイケアで「ストレッチヨガ」を担当している梶尾茂子と申します。ことぶき共同診療所のスタッフの皆さんは、若くてういいういしく頼もしい限りで、皆さんのバラエティーに富んだエネルギーを吸収したいと思っています。

私の方は年ばかり重ねてしまいましたが、ストレッチヨガを通して、

体・姿勢を整

え、指一本一本、全身を解ぐしていき、呼吸(腹式呼吸)を整え、ゆったりとした深い呼吸によってリラッ

クスし、心・気持ちを整えていく。

そうした行程を利用者の皆さんに体験して頂き、「リラックスした」、「気持ちがすっきりした」、と感じて頂けるよう努力して

いきたいです。最近では、便秘が良くなったという声も聞くようになりました。

さて、早いもので私が昨年三月十八日、初めてことぶき共同診療所を訪ね、スタッ

フの方々の爽やかな笑顔で迎えられてから一年が過ぎました。藤枝さんにお会いし、なぜか昔私が西保



健所ケースワーカーだった頃、西と中区合同の患者会(若草会)リクレーションでお会いしたような気がして、妙に懐かしい思いにかられ、まるでタイムスリップしたような感覚に陥り、昔話に花が咲きました。

二十年前、私が「いつかきっと又仕事するチャンスがある」、そう信じて西保健所を退職した頃は、ケースワーカーが庶務課に所属し、精神保健相談業務をたったひとりで担っていました。当時の未熟な私は、前任者のように仕事をこなさなければと一生懸命仕事しても終わるどころかいつもあふれていて、当時昭和五十年代の保健所は、通報や相談件数が増える一方なのに、保健所内の理解と協力体制が全くなかったこ

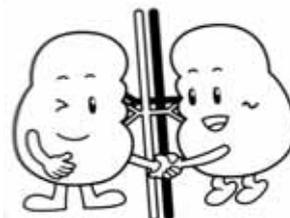
とが最大の問題でした。

私は、ことぶき共同診療所と接してきて、しみじみ思ったことがあります。それは、かつての封じてしまった辛かった経験を思い出し、人と人のつながりを感じたことで、今の私の原点がそこにあるということに気づかされました。

これからも私がストレッチヨガを通じて伝えていきたいことは、心のありようを大切に思って、行き過ぎず、片より過ぎず、バランスを保ちながら、素直に自分の心の声に耳を傾ける(辛いのだろうか? 楽しいのだろうか? 等)。そうしたお手伝いができるばと思っています。まだまだ未熟ですが、どうぞ宜しくお願いします。



“診療室から” (13)



超音波（エコー）検査室から

昨年の11月より診療所に新しい超音波検査のマシンが導入され、私が水曜日の午前中に、主に腹部の検査を担当することになりました。すでに100人以上の方が検査を受けに来ています。

さて、超音波検査とはどんなものでしょう。検査を受ける方には、まず上半身裸になって検査用のベッドに仰向けになってもらいます。そしてぬるぬるしたジェリーをおなかにつけて、プローブというプラスチック製のこてのようなものを押し付けながら検査が進んでいきます。

検査は10分くらいで終わりますが、前後の身支度をいれるとだいたい15分から20分かかります。これからの季節は暖かくなってきますが、寒いときは暖房をきかせてあるので上半身裸でも大丈夫です。

エコー検査は超音波の波動の性質を利用した検査です。もともとは魚群探知機として実用化したのをさらに進化させたものです。これによって体の深部の構造を写しだすことができますが、よく見えるものと見えないものがあります。

超音波検査でよく見えるのは、液体が詰まった物(胆のう、膀胱など)や、中身が充実している臓器(肝臓、脾臓、腎臓、膵臓など)です。

骨などの硬い構造や、空気を含んでいる肺や胃、腸などは反射が強いため、よく見えません。膵臓も体の深いところにあり、胃の空気に

邪魔されることが多く、観察しにくいところです。検査前には食事を抜いてきてください。

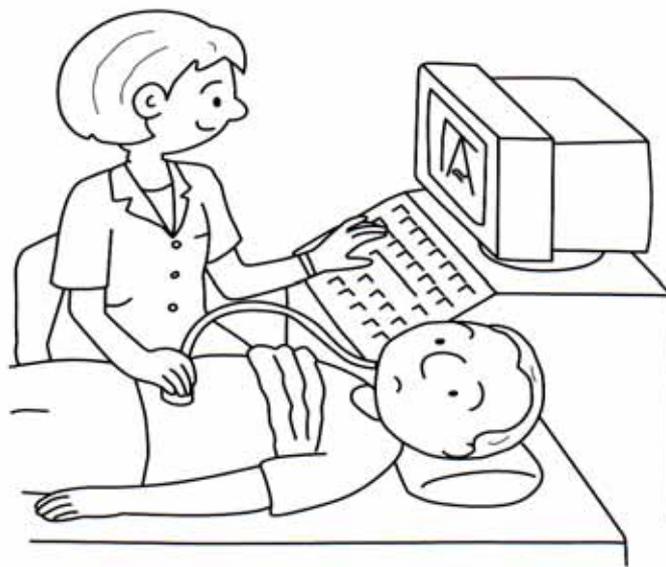
また、肥満体は体の表面から内蔵までの距離が遠いので、深い部分まで良くみることができません。診療所にくる方達の中には肥満の人は少なく、超音波検査向きの体格の方が多いようです。

C型肝炎だと言われている人は、毎年1、2回検査を受けることをおすすめします。理由は、慢性肝炎から肝硬変になり、肝細胞癌が発生する頻度が、他の人に比べやや高いと言われているからです。

検査中は、痛みがあるかどうかなどを聞きながらみていきます。中には博識な方や含蓄のある方も多く、お話を聞けるのも私の楽しみのひとつです。

内蔵の病気が心配で検査を希望される方は、都合の良いときに予約してください。当日の飛び込み検査も可能です。

(鈴木 美奈子)



鈴木茂男さん 追悼

鈴木茂男さん逝く

平成16年3月11日、鈴木茂男さんは清水ヶ丘病院でお亡くなりになりました。入院した翌日のことで、66才でした。アルコール依存症、肝硬変が主病で、糖尿病もありました。当所へは平成12年12月よりの通院で、3年4ヶ月程のおつきあいになりました。アルコールが原因で肝硬変になり、それが原因でなくなる方は、ことぶき町では珍しくなく、むしろ一典型とさえ云えると思うのですが、それでもなお、鈴木茂男さんには、忘れ難い印象がありました。

彼は、入院している時を除いては、死の前々日迄、ほぼ毎日お酒を飲み続けていたと思います。患者さんの中には、まだ体力のあるうちは、「酒を飲んで死んだら本望だ」等と云えてしまう人は結構いるし、食道静脈瘤破裂のような形で突然死してしまう人もいますが、このままでは死ぬと分かれば、たいていの方は、おそまきながら、お酒をひかえめにしようとします。鈴木さんのように、このままでは死んでしまうこと

を承知していても、毎日少量の酒(ワンカップ2本ぐらい)をコンスタントに、しかも一人で静かに飲み続けて死んでいった人は、やはりそんなに多くはないのではないかと思います。おそらく“寂しくて”、“心の中に埋め難い空洞が開いていて”身も心もお酒で暖める以外、暖めようがなかったのだと思います。私の所に最初に来た時にもう既に彼は、アルコールとカロリーメイトくらいしか飲食しないという、驚嘆すべき食事内容だったのですが、その後も大きく変わることなく、42kgの小さな体に、アルコールとエンシュアリキッド(医療用栄養飲料)と、その他少量ぐらいの食生活を続けて、お亡くなりになりました。つつしんで鈴木さんの御冥福をお祈り致します。鈴木さん、何も出来なくて御免ね！

(田中 俊夫)



鈴木さんをしのぶ_____

<ついにオレは酒が恋人なんだと言い切って>

今日4月18日は鈴木さんの67回目の誕生日のはずでした。コスモスのご利用者の中で一番誕生日の色紙を喜んでくださったのも鈴木さんでした。その鈴木さんが旅立ってから1ヶ月が経ちました。ほんのりピンクがかった顔でニコニコと話している時は、必ず飲んでいました。あれから、ふと鈴木さんを思い出す時はいつもその顔が出てきます。アルコールでそうなっているとはいえ、それはそれは幸せって顔に見えていました。

鈴木さんは山形県出身、飲酒歴は両親に酒を買いに行かされ、ついでに自分も飲んでいて中学生の時からです。20才頃に上京し親戚のクリーニング店などで働いたが、40台からは酒びたりの生活となり、アルコール治療の目的で何度も入院をし、アルク、AAにも通ったが、克服できず、私が関わったこの2年は内科的(肝障害、栄養不良など)入退院を繰り返していました。それでも入院して酒を止めると元気になり、担当医と酒はしばらくやめると約束して、帰っては翌日にはもう飲んでいました。そんな病院嫌いではない鈴木さんが、今年

に入ってから、「入院してもなネー」と言い出し、「これ以上飲んだら死んでしまいますよ」の主治医の忠告も聞かず、「オレは酒が恋人なんだ」と言い切って、酒との戦いをやめ、飲み続けました。その結果肝機能はさらに悪化の一途をたどり、ついにその日を迎えることになってしまいました。何度も何度も病院探しをしたり、やめる方法はないかと議論した二人のTケースワーカーと私は「鈴木さんお疲れ様でした」の言葉しかありませんでした。

鈴木さんの宝物は、M病院アルコール病棟の看護婦さん達と一緒に撮った写真でした。七夕祭りで浴衣を着た、若くてかわいい二人の看護婦さんが左右に座り楽しげにしているものです。口では酒が恋人とは言っても、実際はそうではなかったことを私は知っています。

鈴木さん天国で素敵な恋人を見つけてくださいね……。

(訪問看護ステーションコスモス
西村 料美)

茂男さんへ

また、一人寿のひとがいなくなってしまうました。

診療所デイケアの旅行から帰ってきてすぐ、つるつるお肌でご機嫌な私への悲しいお知らせでした。旅行の前日、またもや肝硬変が悪化し、緊急入院してホッとしたばかりの出来事でした。

彼は本当に性懲りもなく、お酒を飲み続けては肝臓を壊して入院し、元気になって退院。そしてそれも束の間、またまた飲み続け・・・、という生活を何回繰り返したことでしょう。診療所に来て、「肝臓悪いよ、このままじゃ死にますよ」と脅されても、「ん～、ちょっとだけ、あ～やめられないなあ」とひょうひょうと言ってのけるのです。そして、怒られると分かっているにも、定期的に診療所には顔を出し、ちっちゃい体で待合室にちょこんと座り、栄養ジュースをもらって帰るのです。

将棋好きの彼を診療所のデイケアに誘ったこともあります。しかし、将棋の名士に3戦3敗、こてんぱんにやっつけられ、滞在時間にして30分。あっという間に「もう行かない」と言われてし

まいました。何か間が悪いんですね。

入院しても、またすぐ帰ってきてくれるのかな、と思っていたけれど、それは実現しませんでした。ただ、ぎりぎりまで家に居られ、最期まで大好きな訪問看護の西村さんと一緒にいられたことは、幸せだったのではないのでしょうか。

茂男さん、故郷でゆっくり休んで下さいね。

(矢島 雅子)



聴きとり結果報告 ことぶき地区居住者が利用する食堂、食料品店、銭湯等について

田中 俊夫

2003年6月20日

以下は、ことぶき共同診療所を受診した患者さん 108 人について、2003 年 5 月～6 月にかけて聴きとりをした結果である。対象者の選定規準はなく、話しのついでに聞けたとか、通院期間が長く、聞き易かった等であり、ほぼ、アットランダムであったと考えている。



1. “自炊している” と答えた人の数

(「食事はどうしていますか?」という問いに対し、また、自炊しているという答えの中味は、最低限、自分で御飯を炊いているという意味で、おかずまで作っている人は、むしろ少数である。)

「自炊している」と答えた人	36人(33.3%)
---------------	------------

なお、御飯を炊くに当たっては、一人が共同ガス台を使っていた以外は、ほぼ全員が電気釜である。

2. “自炊している” と答えた人に、更に「食材はどこで買いますか?」と尋ねて、答えがあった結果

店名等	人数	構成比
あおば(スーパー)	15	41.7%
横浜橋商店街	12	33.3%
長者マーケット	4	11.1%
上州屋	3	8.3%
ウィズ (長者町3丁目のスーパー)	2	5.6%
その他	3	8.3%
計	36 *	108.3%



(複数回答)

* 36人は、“自炊している” と答えた人の実数。

ダブって答えている人もある。

「その他」は天王町、上永谷、みなとみらい地区など。

3. 自炊をする／しないに関わらず、惣菜、弁当等を買う店としてあげられた店（重複集計している。すなわち一人で何軒もあげている人あり）

店名等	人数
マルキン	28
マルミツ	21
友苑	17
ローソン(扇町)	8
ローソン(吉浜町)	6
セイワン	5
その他	7
計	92

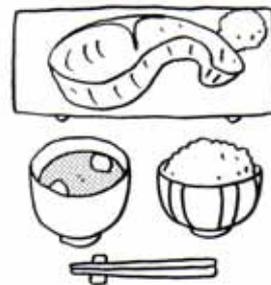


（複数回答）

「その他」は、ほかほか弁当、セブンイレブン、100円ショップなど。

4. 外食店としてあげられた店

店名等	人数
にのみや	5
さなぎ食堂	5
吉野屋(牛井)	2
その他	4
計	16



（複数回答）

「その他」は、松かど、中華一番など。
配達弁当利用者は2人。

5. 「入浴(風呂)はどこで入っていますか?」という問いに対する答え

銭湯名等	人数	備考
小山湯	22	うち、コインシャワーも使う人2人
翁湯	16	うち、コインシャワーも使う人4人
えびす湯	10	うち、コインシャワーも使う人4人
山喜湯	5	
コインシャワー	9	
生活館シャワー	4	
その他	9	
計	75	



（複数回答）

「その他」は、磯子区の老人福祉センター、木楽の家、ヘルパーステーションなど。

ことぶき共同診療所・鍼灸院ガイド

診療科目 **精神科 神経科 内科 心療内科**
整形外科 鍼灸

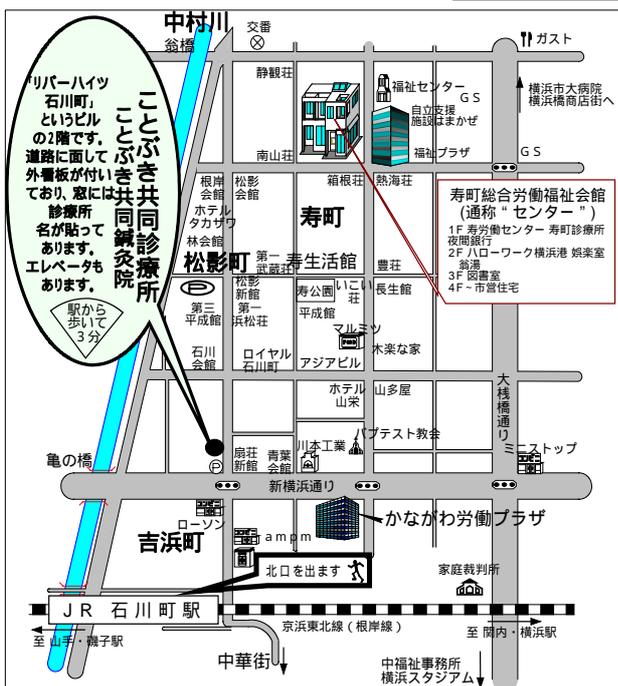
診療所

	9時30分	12時	14時	18時
月	休 診			
火	田中・鈴木	昼 休 み	田中・鈴木	精神科・神経科・内科
水	越 智		越 智	精神科・心療内科・内科
木	田中・鈴木		田中・鈴木	精神科・神経科・内科
金	鈴木		田 中	精神科・神経科・内科
土	整形外科・精神科・神経科・内科			

第1・2・4・5週 三橋・鈴木
 第3週 大脇・鈴木

鍼灸院

	10時	12時	14時	18時
火	新 井	昼 休 み	新 井	
水	新井・富永		新井・富永	
木	新井(矢島)		新井(矢島)	
金	新 井		新 井	
土				



保険扱い
 国民健康保険 各種社会保険 生活保護法 精神保健福祉法(その他、医療福祉相談も受け付けています)

なお、鍼灸院は予約制のため、お電話等で確認の上、ご来院ください。

共同診療所・鍼灸院の所在地

〒231-0025
 横浜市中区松影町 2-7-17
 リバーハイツ石川町 2F

でんわとファックス
 (045) 651-2305

2004年5月10日現在